

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 30 年度

事業所番号	2775802008		
法人名	三友企業有限公司		
事業所名	アイケアホーム瓜破		
所在地	大阪市平野区瓜破南2丁目4番3号		
自己評価作成日	平成 30年 9月 28日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2775802008-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 11月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭と同様にメニュー作成から買い出し、食事作りの全てを職員が行っている。 ・充実した外出支援⇒昔馴染みの場所やお店などご本人からの希望や、会話中の言葉をヒントに遠方でない限り外出に取り入れ支援に努めている。 ・職員との信頼関係を重視しユニット別に職員を固定。 ・共有空間の広さとゆったりとした空間で、思い思いに過ごして頂いたり、ご家族が面会に来て頂きやすい環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>三友企業有限公司が運営する2ユニットのグループホームです。近隣の別法人特別養護老人ホームやグループホーム等と協力し、地域とのつながりを活かしたホーム運営をしています。理念には「☆家庭的な雰囲気の中で笑い溢れる暖かみのある生活ができるように支援します。☆入居者一人ひとりの心に寄り添い、楽しみや悲しみを感じ合える関係を築きます。☆入居者の心身状態をきめ細かく把握し、体調管理または事故防止を図り、適切なケアに努めます。☆地域とのつながりを大切に、たくさんの人たちと触れ合う機会を作り、充実した暮らしを目指します」と掲げ、理念に沿った支援をしています。職員は利用者に寄り添い、話を聞き、喜びを分かち合っています。生活を楽しめるよう、一人ひとりの希望に沿って映画館等に出かける支援をしています。日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用して、利用者が安心して暮らせるようにしています。提携医療機関と連携して24時間医療連携支援を行ない、看取り支援にも取り組んでいます。家族間の交流を進め、意見を集約してホーム運営に活かすなど、利用者の生活を最優先しているホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	合同朝礼の際、毎週月曜日には理念の復唱を行い、実践に繋げるように意識を高めている。 又、目視できる場所に理念を掲げていることで全員が常に認識できている。	理念には「☆家庭的な雰囲気の中で笑い溢れる暖かみのある生活ができるように支援します。☆入居者一人ひとりの心に寄り添い、楽しみや悲しみを共感し合える関係を築きます。☆入居者の心身状態をきめ細かく把握し、体調管理または事故防止を図り、適切なケアに努めます。☆地域とのつながりを大切にし、たくさんの人たちと触れ合う機会を作り、充実した暮らしを目指します」と掲げ、ホームの数か所に掲示し共有しています。理念は曜日を決めて朝礼等で復唱し、職員間で認識を深めながら、月間目標として具体化し実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	工場地帯で日常的には難しいが、地域行事への参加、支援は行っている。	ホームは川沿いの工場地帯にあり、地域住民との交流の機会は散歩に出て挨拶を交わすのが日常です。利用者は地域のお祭りに参加して、だんじりを背景に写真を撮ってもらったり、模擬店で楽しんだりしています。ホームでは地域交流を進めるために、ホーム前の広場で「夏祭り」を行う、利用者の作品展をホーム内で行うなど、近隣に参加を呼びかけて交流を図っています。地域ボランティアの協力を得て阿波踊りや音楽演奏会等にも取り組んでいます。ホームの通路に面した窓に、「相談窓口」のステッカーを貼って、地域の人々の介護相談等にも応えています。すぐ近くにある別法人の特別養護老人ホームとも交流して災害時の協力関係等を進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターを通じ、支援の窓口は開いている。 又、ホーム事務所の通路に面した窓に誰もが目に出来るように相談窓口のステッカーを貼っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度行っている運営推進会議の中で、入居者の状況や、行事に内容、地域との交流について色々な意見や助言を頂きながら、サービスの向上に活かせるように努めている。</p>	<p>運営推進会議は開催規程に沿って2か月に1回、年6回の定期開催をしています。参加メンバーは、利用者家族等、地域町会長、地域包括支援センター職員、地域の別法人特別養護老人ホーム職員、ホーム職員です。開催については毎回、全家族に通知し、少しでも多くの家族が参加できるように取り組んでいます。会議では、ホームから利用者状況、職員研修、事故発生、感染症予防、行事開催、地域行事への参加、ホームの取り組み課題や改善点等、多彩な内容を報告し理解をもらうと共に、評価や助言を得て運営に活かしています。最近の会議では、水害時の避難について相談し、一時的に避難できる場所も決まりました。議事録は詳細に残し、関係者に届けて共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>〇市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>日頃から連絡を取り、事業所の実情を伝えながら、協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>市(区)の担当窓口には、利用者の支援手続等で訪れ、何かあれば相談しています。事故報告書や運営推進会議録もその都度提出しています。管理者は市(区)のグループホーム連絡会に参加して、在宅医療ネットワーク、認知症高齢者支援ネットワーク(るんるんネット)等の役職を務め、ホーム運営に活かすと共に、地域貢献に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>昨今の事件・安全面なども考慮の上、玄関と2階北側ベランダの施錠は行っているが、希望に応じて柔軟に解錠を行い、行動の抑制に繋がらないように支援している。 又、身体拘束への理解は内・外部研修により職員全員意識をもってケアに取り組んでいる。 身体拘束廃止委員会を設け、日頃のケアが拘束に繋がっていないか、問題とされることはないか話し合い、他職員へもミーティングの際に内容報告と再確認を都度行っている。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアを重視し、職員の育成に取り組んでいます。ホームでは、身体拘束廃止委員会を設置し、方針を徹底するために年間計画の中で研修を重ねています。内部研修は具体的でわかりやすい内容で実施し、外部研修にも参加しています。毎月の職員会議では日頃の支援をふり返り、言葉使いを含め身体拘束に繋がることがないように話し合いをしています。ホームの前には一級河川があり、玄関前の道路の交通量も多いことから、安全面を考えて、1階の総合玄関は施錠している状況ですが、職員は利用者の思いにより添い、外出希望があれば付き添い自由な暮らしを支えています。</p>	<p>利用者の安全面に配慮しながら、日中は時間を決めて総合玄関にも鍵をかけない取り組みが求められます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内・外部研修やミーティングの際に、身体拘束を含め常に話し合いの場を設け、虐待防止の徹底には努めている。 特に目に見えない「スピーチロック」や言葉使いに注意を払い精神的虐待の認識に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しておられる方がいるので、理解できない職員がいたら例に挙げやすく上司より説明を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を行い、不安や疑問点などを尋ね理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、又は直接意見や要望を傾聴した職員は速やかに管理者に報告、対応に努め運営に反映を行っている。	管理者は、家族との信頼関係を築き、要望や意見を出しやすい環境作りに努めています。職員は家族が来訪した際に意向や要望を聞き、利用者支援とホーム運営に活かしています。ホームの行事に合わせて家族会を開いたり、アンケートを依頼したり、運営推進会議にも参加を呼びかけています。2か月毎にホームの行事や利用者の様子を知らせる写真入りの『アイケア通信』にメッセージを添えて家族に送付しています。家族から意見が出された場合にはすぐに対処し改善しています。玄関に意見箱を設置して意見を出しやすくしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや契約更新時に個人面談等で意見や提案を聞き、反映できるものは迅速に行っている。 その他、日々職員の意見や提案、相談事を傾聴できる関係性を図っている。</p>	<p>管理者は職員とのコミュニケーションを大切にする運営を心がけています。 1か月毎にユニット会議を開催し、必要な場合には合同会議を開いて職員の意見反映の場を設定し、利用者支援とホーム運営の充実を図っています。職員の提案は「使いやすいランチョンマット」の導入等、多くの事例として利用者支援に活かされています。行事は担当職員が企画・立案し、それを基に会議等で検討し実施しています。身体拘束廃止委員会、事故防止委員会、感染症予防対策委員会等についても、職員が分担して役割を果たしています。 『アイケア通信』は職員が交代して編集していますが、担当者名を記載することで、職員の努力と工夫が読み取れるようにしています。管理者は会議以外でも日常的に職員と話し合い、相談を受けるなど信頼関係を結んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>処遇改善制度を利用し、賃金の改善を行っている。職員個々の能力や実績を考慮し、昇給、昇格を行っている。 資格取得希望者に関しては、勤務日程の調整等を配慮している。 又、非正規職員から正職員への転換の希望があれば、対応できるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々のスキルアップの為、研修の情報を提供し、必要であれば勤務日程を調整し、参加してもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者によるグループホーム連絡会やネットワークへの参加により、他事業所との情報交換や職員のスキルアップに繋げる外部の勉強会や研修会を受ける機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や見学時にケアマネ、管理者により時間を十分に取り、不安や要望、必要なサービス等を傾聴し入居前に情報の共有ができるように資料を作成し、サービス導入の段階では、全員が状態を把握していることで本人との信頼関係を図ることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ってしっかりと不安な思いや要望等を傾聴し、入居前には職員へ情報の共有ができるように資料を作成している。サービス導入の段階では、全職員が把握していることで、家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安や要望を傾聴の上、アセスメントを行い、今必要とされている支援を見極め、介護計画の作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするもの同士として、生活の知恵を教わったり、喜怒哀楽を共にしてそれぞれの残存能力を活かしたお手伝いをして頂きながら、やりがい、生きがいを感じていただけるように信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	快く面会に来て頂ける環境と、御家族様との外出や、ホームでの行事にも参加して頂き、共に支え合う関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば支援を行っている。 又、日々の会話からの情報や御家族様からの情報をもとに、馴染みの場所へ出かけることが出来る支援に努めている。	利用者との日常会話の中で、馴染みの場所へ買物に行きたい、映画を見たい、レストランに行きたいなどの希望が出され、職員はその希望を書きとめ職員間で話し合い、個別の要望が実現できるように取り組んでいます。電話をかけたり、手紙を出したりする支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を見守りながら状況に応じて職員が介入、他者との交流が上手く図れない方には、間に入り話題の提供や会話の調整を行い支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には今後も気兼ねなく相談に来て頂けるように説明を行っている。入院の為、退去になった方に対して、時折面会や御家族への電話で状態を伺い、関係性が途絶えることのないように支援させて頂いている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中に取り入れ傾聴や行動・表情から意思意向を把握できるように努めている。又、困難な場合は職員それぞれが本人本位の考えを出し皆で検討して行っている。	職員は利用者の居室で対話したり、居間で雑談したりしながら利用者の思いや意向を傾聴しています。言葉で表現しにくい利用者には表情やしぐさ、問いかけて頷いてもらう等の表現で意思を確認しています。職員一人ひとりが確認した利用者の希望や意向は記録に残して職員間で共有し、事業計画や介護計画等に活かしています。利用者の発言や行動、怒り等はそのまま受容し、否定せず利用者の意向を理解するよう時間をかけて検討し、利用者本位に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来る限りの情報収集を行い、職員全員に共有して入居日前に出来る限り把握しておくことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動や心身の状態を観察し、申し送りや情報交換の共有を図り、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時、又は必要に応じてモニタリングを行い、支援実施状況から課題やケアの見直し、又、本人や御家族様からのご意見・ご要望、職員の観察からの気づき等をもとに医療関係者との連携を図りながら、ケアプランの作成を行っている。	利用者・家族、それぞれの意向を確認し、日々の利用者支援の中から把握した情報を活かして介護計画書を作成しています。個別カンファレンスを行い、必要時には医師や看護師等と相談し、家族を交えて話し合いながら介護計画書を作成しています。ケアの実施記録を残し、モニタリングをして6か月毎に介護計画書を見直しています。他の施設等で生活に馴染めなかった利用者を受け入れ、職員間で話し合い、安心して暮らせるような介護計画を作成して、支援を進めることで、ホームの一員としての生活ができるようになった事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の言動や変化、気づき、状態を具体的に記録に残すようにミーティングや内部研修で記録の必要性を伝え指導していることや、職員それぞれの気づきを申し送り時に報告、職員間の申し送りノートの活用などで情報の共有を行っている。 各サービス提供者、ケアマネに伝達、相談により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時はもちろんのこと、状況や意向が変化した時には柔軟な対応・支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やグループホーム連絡会を通じ、周辺情報などの情報交換を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関と密接な連携をとり、定期的かつ適切な医療を受けられる体制が整っている。 ホーム主治医と訪看、ホームとの連携は十分図れていてそれぞれが柔軟に対応し協力体制は整っている。	利用者、家族が希望する医療機関で適切な医療を受けられるように支援しています。希望があれば協力医療機関の内科医師、歯科医師等の往診を受けることができます。また、必要に応じて専門医の医療を受けることができます。基本的には家族等が同伴して受診しますが、家族等の都合が悪い場合には職員が同伴しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問日だけではなく、24時間体制で相談に応じて頂いており、体調不良や異変があった場合には、すぐに報告し適切な指示を受け支援出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より御家族様と一緒に医師からの説明を受け、支援方法などの情報を医療機関に提供している。 入院期間中も医師・看護師・ケースワーカーとの情報交換を行いながら、早期退院への支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時や段階的に重度化や終末期に対する指針の説明を行い、重度化した場合には御家族様・医師・職員と共に本人にとって十分にできることを話し合いながら、方針を常に共有し支援に取り組む体制が出来ている。</p>	<p>「終末期ケア対応の指針」を定めています。入居時には重度化した場合の対応について説明を行い、意向を確認しています。利用者が重度化した場合には再度、利用者・家族に意向を確認し、医師や訪問看護師とも連携してホームでできる限りの支援をしています。ホームでは最近にも終末期支援を行った事例があります。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に内部研修課題として取り入れていることや、都度、適切な対応が出来るよう知識を高めている。 順次、上級救命救急講習を受け、実践力がつくように備えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回の避難訓練を行い指導を受けている。 防災対策については、月1回の自主防災訓練を行っていることや、水害に関しては現在隣接する特養の方へ協力体制依頼中である。	消防署の指導を受けて年に2回の災害時避難訓練を行っています。一級河川の堤防が目の前にある地域にホームがあることから災害時の避難場所については職員間で検討し、いろいろな状況を設定した自主避難訓練を月に1回実施して記録に残しています。運営推進会議では緊急一時避難についても話し合い、すぐ近くにある別法人特別養護老人ホームの上層階に一時避難できるよう取り組んでいます。災害時の飲料水や食料品の備蓄はリストを作成して管理しています。多目的に使用するための水やガスコンロ等の器具をホーム内に保管し、いつでも使えるようにしています。	ホームでは水害時の緊急一時避難場所を確定し、利用者と共に自主避難訓練を行い避難先として認識できるよう経験を重ねていく予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある関係性を保ちながら人格を尊重し、誇りを損ねないような対応を心掛けている。 配慮に欠けている場合は職員間で注意行う。また複数の職員が意識に欠けた言葉かけ、対応が見られた場合はミーティングにて話し合いや再度指導を受けることになる。	管理者は内部研修を行い職員が適切な接遇を行えるように配慮しています。職員は利用者を人生の先輩として尊重し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけています。また、個人情報の取り扱いについては運営規定に「秘密保持」として明記し、職員とは守秘義務について入社時に誓約書を交わしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>意思を尊重し、返答や自己決定を行いやすい声かけや選択肢で、表情からも読み取れるなどの支援を行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペース・体調・気持ちに合わせて過ごして頂くよう支援にはつとめているが、職員の都合を優先する場合もないとは言えない。</p> <p>個々のニーズに応じたプランに添いながらも状況や状態の変化に臨機応変な支援を行い、その人らしく過ごして頂けるように努めてはいるが、絶対に職員の都合で行っていないとは言えない場合もある。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>自身で衣類を選ばれる方以外は上下のバランスを考え、本人に確認の上、着衣して頂き、髭剃りや整髪にも気配りは行っている。外出や行事ごとの時には化粧や普通以上のおしゃれも心がけ支援している。</p> <p>汚れた衣類は都度更衣もして頂き配慮を行っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前の聞き取りや普段の会話、摂取状況からそれぞれの好みのものを把握しメニューに取り入れたりしている。残存能力を活かし、見守りや付き添いのもと食事準備や食器洗いを手伝って頂き、職員も一緒に食事を摂っている。食事中には BGM を流し雰囲気作りの工夫も行っている。	食事は3食共にホームで作り提供しています。職員は利用者に献立の希望を聞き、一緒に買物に出かけ、新鮮な食材を選んで購入することから食事作りをしています。利用者は下ごしらえや盛り付け、後片付けなど、得意な場面で活躍しています。できたての食事を職員も一緒に食べながら、さりげなく介助を行い、話題を提供しています。利用者の好みや希望に添って外出に出かけることも多く、誕生日には希望のごちそうを用意して楽しめるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックシートがあり、食事量や水分量の確保を行っている。偏りがないようにバランスを考えてのメニュー作成や個々に応じた食事形態で提供し、水分補給においては飲み方の工夫やバラエティーにとんだ飲み物の種類で脱水や便不良を防ぐ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声かけし、見守りや介助で行っている。週2回の義歯洗浄も行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体状況に合わせて排泄物品の使い分けを行い、個々の排泄パターンやサインを把握し声かけやトイレ誘導を行い、日中は一人介助でのトイレ誘導が難しい方は2人介助を行ってでも全員がトイレでの排泄ができるように支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、早めにトイレ誘導を行うことで失敗を少なくして、おむつ類に頼らない支援をしています。また、水分摂取量を記載し、排泄時間との関連を見ながら支援している場合もあります。夜間はポータブルトイレの使用もありますが、日中はトイレでの排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力服薬せずに排便が促されるように飲食物の工夫や必要に応じて、腹部マッサージ当を施工して便秘が原因となる周辺症状の軽減に努め取り組んではいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、週3回の入浴実施は行っているが、希望やタイミング、時間帯は職員都合となっている。体調不良や拒否が強い時には状況に応じて変更は行っている。一人ずつ浴槽を洗い、お湯の入れ替えを徹底し、入浴介助者は入浴中の会話を楽しんで頂ける話題や、普段言いにくいようなことを引き出したり傾聴に努めるなど個々に工夫、支援をしている。 希望があれば入浴日以外でも入って頂ける対応はしている。	週3回の入浴を基本に、利用者の体調や気分、感情に合わせて無理のない入浴を支援しています。声かけをしても気の進まない利用者には無理に勧めず、日を変えたり、時間を変えたりして気持ち良く入浴できるように支援しています。季節湯や入浴剤を活用した好みの湯を用意して、利用者を楽しんでもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	日中は個々の身体状況や体調に 合わせたレク、運動、体操、散 歩等を積極的に支援し、夜間の 良眠に繋がる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	それぞれの薬剤表ファイルがいつ でも確認できる場所にあり、服 薬サイン記入や追加薬・臨時薬 の際にも全職員が認識するよう に申し送り・スタッフノートへの 記入の徹底を行っており、症状 の変化・観察に努めている。 服薬マニュアルに添っての介助・ 徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	散歩や個別外出、季節に応じた 行事等で気分転換を図り、楽し みとして頂いている。 又、個々の得意な事で役割の場 面を作れるように支援に努めて いる。 アルコールも適量の提供は本人 希望や行事の時など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方々の協力は難しく、日常的に希望に添えていないも、個別外出や行事外出、誕生日の外食と外出の機会に出来る限り希望に添った場所へ行っていただけるように支援に努めている。	ホーム周辺や河川敷の散歩、近くのお地藏さん参り、スーパーへの買い物等が日常の外出支援です。年間を通じてはお花見、花火見学、紅葉めぐり、遠足などを企画し、遠方にも出かけています。個別支援に取り組み、一人ひとりの希望に沿って、映画館や甘党の店等に出かける支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を持っていない不安感は理解できるが、トラブルの原因とならないよう事務所預かりにしている方が多いが、本人の希望に応じて使用して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて支援は行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室の入口には表示やのれんを使用し場所がわかるようにしている。混乱をまねくような状態とならないよう配慮し、リビングには季節的な飾りや日めくりカレンダーを設置し、季節感や時間の認識への工夫も行っている。入居者の言動により他者に不快をまねくような場面があればさりげなく声かけさせて頂き、距離が置ける場所(自室も含め)へ誘導させて頂くなど支援に努めている。	ホームは2階建てで1・2階のユニットはほぼ同じ間取りになっています。利用者はエレベーターを活用して1・2階を自由に行き来することができます。共有空間が広く、食堂兼居間にはソファを置き、テレビを見ながらゆっくりとくつろげるようにしています。トイレは各階3か所にあり車イス対応にしています。浴室からもトイレに入れるようになっており利便性を考慮した造りにしています。浴槽の手すりやイスは使いやすく工夫して、重度化した場合にも対応できるようにしています。廊下やユニット玄関近くにイスを置いて、利用者が活用できるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ソファベンチと共有空間のなかでも思い思いに過ごせる居場所に工夫を行い支援に努めている。又、時々関係性や状況に応じて声かけを行いながら、交流を図ったり個別ケアの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には御家族様とご本人様が落ち着き過ごしやすいお部屋作りをお願いし、使い慣れた思い入れのあるものを置いて頂き、それぞれに好まれるような写真や装飾品で居心地よく過ごせる工夫は行っている。</p>	<p>居室にはベッドやクローゼット、エアコンが備え付けられています。利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇、写真などを持ち込み、それぞれが特徴のある居室にしています。居室からは外の風景も眺められ、ゆっくりくつろぐことができます。職員は利用者と共に整理整頓に取り組み、利用者が気持ち良く過ごせるように、空調にも配慮しています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの動線に配慮行い、安全に自立した生活が送れるように環境整備を行い、工夫支援している。残存能力を理解し、安全に自立した生活が送れるように居室内含め、フロア一の動線に配慮行い環境整備に努めている。</p>		